

ヨシちゃん ひとりごと



猫わけ」するな

「の「ひとりごと」の欄、書くのに困ると、もう35年前83才で亡くなっている「おばあちゃん(祖母)」「(の言葉)を利用します。なんで父母を飛ばして祖母やと思われるかも知れませんが、それはそれなりの曰く因縁があるのです。それはもう少し先で(時効後)書くことがあるかも・・・。

今の私、75歳にしてはスコブル元気です。新聞は少々無理をすれば老眼鏡なしでも読めるし、ビルや駅も階段でスイスイ? 自足で上ります。

幼い時は、国民(小)学校四年生までは虚弱児で体操の授業は免除されていました。寝る部屋は「クレゾール(消毒薬)の匂いと看護婦さん姿が常に有りました。身長体重も平均以下、想像できないで小二重・ヨシちゃん しょうが



本当です。戦争が厳しくなるまでは、大店ではありませんが住込みの番頭、丁稚さんもいましたし、酒屋と飲み屋兼業でしたから食事の「オカズ」も種類は豊富。只「店の人」と「家の者」

食べる場所は別でした。

虚弱な私は小食で好き嫌いが多い子供。幾つかのお皿の「おかず」の好きなものだけ箸を付け残すと「義郎猫分けしたらアカン!」と何時も祖母に叱られたものです。そして更に「食べられへんな残しなはい!」と続きます。

他のことは、口五月蠅くない人でしたが、食事作法は厳しく、左手で箸を持つと金火(まだ食べられぬ)私の中で箸で手の甲を叩かれ、肩幅より広く肘をはるな。食べながら喋るな。読みながら食べるな。等々です。お箸使いは大

豆を箸で挟んで別のお皿へ移動する練習を幾度となくしました。練習や叱られた成果は抜群で今に残っています。会席のお膳でも順番に一品をキレイ食べてから次の品へ、家内「万遍に食べた方美味しいの」と言われます。戦中の子供で特に「お米」を粗末にすることに抵抗を感じます。それにコンビニでは、おにぎりやお弁当を廃棄します。から実際に「廃棄」という行動で【肯定】してしまいます。この哲学的な【矛盾】が解

0の錯覚

先日、宴席で「ノンアルコール」のビール風飲料を3種類いただいた。内1本はアルコール0.0と表示、他の2本と若干味も口あたり喉こし等に違いを感じた。好き嫌いもあるし品評は避けるが、酒屋としての私の感想は、ビール会社が「苦労して何でこんな飲料をつくるや」。

今朝、毎日送信されて来る「メコ通信」に、毎日新聞の「記事が転載されていた。最近では脂肪「ゼロ」のヨーグルトにハマっている。カロリーは抑え、味は変わらない。言われたらキャンペーンです。辛いな。

「x」乳業の知人が教えてくれた。「栄養表示基準で「脂肪ゼロ」と表記できるのは脂質を0.5%未満に抑えた商品。努力したんだ。でも、必ずしもゼロ0ではないんだよ!」【は記事引用部分】

私は、牛乳の美味しさを取り繕うお乳屋さんに同情する。栄養があつて子供にも病人にも最適の乳を搾られた牛にも悪い。「0」が自慢のCM広告「四捨五入」の「0」が多いことを知り、それで「000」を錯覚せず「CM広告」の場合同「00」も多々あるのだと思つてご判断ください。

「丁前にエエ格好を書いたが、あんたファミマでは売ってるやん」と

決できたら「地球温暖化」が防げるだろうと思うのです。



【蛇足】大辞典では「猫分け」は記載なし。ネットには「猫わけ」という言葉も出ていて、猫は元々食事を何回にも分けて食べるのが普通「置き餌でOKという考え方」とありました。上は14年の間家族だった「ダリ」。

お墓の上のハナミズキの白い花で挨拶をしてくれます。

京の三大祭

葵祭・祇園祭・時代祭は京都の三大祭です。祇園祭りは1100年続く「八坂神社」の「氏子」の祭りですが、今は日本最大の祭りになり、京都は大賑わい。有り難いこと。私の子供の頃は「葵祭・時代祭」は休校、前日の14日は新日吉神社(学校の氏神)で連休で勉強なしで大喜びしました。校区には伏見稲荷の氏子地区があり、その日は「半ドン」。

お祭りも三大祭り以外は淋しくなりました。神様も時代の嵐には勝てないのでしょうか。

資本主義はなぜ自壊したのか

「日本再生への提言」



著者：中谷 巖 集英社発行

著者は日本の著名な経済学者で、小淵内閣の首相諮問機関「経済戦略会議」の議長代理を務めるなど政府の委員を多く務め、1990年代には、構造改革推進の立場から政策決定に大きな影響力を持った方。「改革なくして成長なし」の政策の一翼をになってきた一人です。

その著者が「懺悔の書」と前書きに書いている本が出版

されたので、購入し読みました。本の中でブータン、キューバに旅行した著者は、両国に「桃源郷」を見たと言っています。

両国とも小国で主とした産業農業、経済的に(超)貧しい国ですが、幸福感調査でブータンは北欧諸国の次の8位、日本は何と九十位。キューバには「ファミリドクター制度」が確立し、「医療大國」だそうです。

日本の高齢者・医療の現状と比べると「桃源郷」でしょう。読後もうチョツと若ければ「幸せ感」の少ない日本からどちらかの国に移住したと思うたのです。

本は2F「集」に置いてあり貸出可

京都&東山 ぶらりピカリ

16

馬町十三重塔

国立京都博物館・在



写真の石塔

「馬町十三重塔(二基)」は、現在京都国立博物館前庭にあるものです。この約6メー

トルもある巨大な石塔は、昭和年(昭15)に解体修理が行われ、くずれていた上部が復元され、その際、塔の内部から金銅仏等多数の納入物が見つかりました。北塔は無銘ですが、南塔の基礎には、「永仁三年(1295)二月廿日之立 願主法西」の銘文が刻まれています。

さてこの塔が何の目的のために建てられたのか

鳥部野葬地の総祭祀施設としての役割をもっていた。

六波羅に近いことから東国への道中の安全を願う供養塔

鎌倉時代の観音といつ僧侶に依る宗教活動の流れを汲むものではないか(京都国立博物館のホームページ参考)。

の諸説があるよつです。

「十三重塔」は、渋谷(街道)通東大路東入る北側の「佐藤継信忠信之墓」石碑横の路地の奥



にある「お墓」の(写真上)そばから博物館へ移されたのです。

「お墓」の主は、佐藤継信・忠信兄弟で奥州の藤原秀衡公が、源頼朝(兄)が源氏挙兵に加わる源義経(弟)に付けてくれた家臣。源平の戦いで義経の側で活躍した武士。兄継信は、屋島の戦いで、義経めがけて飛んできた矢の前に立ち、身代りて矢に当り死に、弟忠信も又、義経が京都から奥州へ逃亡する際の身代りになり死

相続よもやま話

臨時・酒谷義郎・筆

本欄のご投稿をお願いしていた古田玄州様の(四)は「ご都合で原稿が遅れました。緊急避難的に、法律の知識の無い酒屋の主が「欄」をうめることになりました。雑談だと思ってお読みくださいれば有り難く存じます。

第52回「朝粥食べておしゃべり会」でお話くださった、社会福祉法人青葉学園理事長村田弘道先生から「人間ってなんやるか?」と題したお話を戴きました。人間は「生まれて必ず死ぬ」もの「老い」はその道中だという話を面白く聞かせて貰いました。

んだと伝えられています。

江戸時代に、その佐藤継信・忠信兄弟揃っての忠義は、謡曲や歌舞伎に取り上げられ、武士の鑑として大人気で、それがお墓の建立に結びついたのか、その兄弟が、たどり着けなかった故郷「東国」への想い汲んで、京から東国への出発点に建てられたのではないかと、とも考えられています。

修道校(東山小)前の細い路地の奥にある忘れられたような「お墓」でも、こんな歴史的の口マンがある東山です。住んでいる私達も大切に保存し、護り続けていきたいものです。

そんなんです。どんなに位の高い人、頭のいい人、お金や土地を沢山持っている人でも「あの世」へは持って行けません。どんなに貧しくて、借金如山程あつても借金取りは「あの世」へは追いかけて来ません。そう考えると後は「野となれ山となれ」で「人生」は気楽なものです。

大昔の人達は、その日か明日位食べるのが精一杯でしたから気楽だったのでしょうか。いつの間にか地球の土地を勝手に区分けし所有、物々交換から貨幣が交換手段になり、今の有様になったのです。持つ人持たない人が集団で「国」が出来て、決まり(法律)をつくり、国に住む人は、貧

和食の底力

小泉武夫氏(紹介P4)

沖縄はもう長寿県ではなくなった。

私たちの食生活は、この45年間で大きく変化しました。どう変化したかといえますと、肉類の消費量が6.7倍に増え、油の消費量が4倍に増えている。

この変化に、日本人のからだがおいついていけないはずがない。私たちは、民族的にモンゴロイドという民族系譜の遺伝子DNAを継承して生きています。それも2種類のDNAをもっている。ひとつは日本人に共通した遺伝子、もう一つは家族の遺伝

富・老若・賢食に関わり無くそれ(法律)に縛られます。死ぬと血縁者間で財産の有無に関係なく相続が発生し、限度以上ある場合は税金を払い、逆は借金を引継ぎます。

親は自分の子らの間で争いが起こらない。そんな育て方はしていないと思うのが普通です。が、生まれた時から一緒に育った兄弟でも争いが起こることがママ有ります。昔から「兄弟は他人の始まり」と言います。この連載は「親」が争いを未然に防ぐために知っていると良いとお願ひしました。私は父方母方併せ計八名の長男。既に両親は亡くしました。が、最近一人減りました。

子を受け継ぎながら長い間生きてきた。ところが、敗戦直後からの45年間というもの、この遺伝子に逆らった食生活をしてきた。この影響をものに受けたのが沖縄です。アメリカの占領下で、肉食ばかりでなく、全ての食生活がアメリカナイズされました。その結果はどうですか。世界一の長寿を誇ったのは過去の話で、今は男性は27位、女性も4位になっています。

奄美大島はなぜ長寿を保っているのか。

先達で、NHKの「徹子の部屋」で話が出たのですが、小学校の運動会で救急車が1日4回も出動したそうです。みんな骨折だった。子供の骨が弱くなっている。私が小学校に入ったのは昭和24年ごろと思いますが、そのころを考えると運動会春夏2回で12回やっているけれど骨折など聞いたことがない。アトピーもなかった。栄養学では、人間に必要な食事をカロリーだけで計算している。しかし、民族の遺伝子にかかわる食生活は、カロリーだけでは計算できないんです。いま注目されているの奄美大島です。奄美大島は山が多く、ので、沖縄に比べて基地建設に不都合だったから早く返還された。アメリカ型の食生活の押し付けから免れ、昔ながらの食を守り通すことができた。以下4ページ上段に続く

酒屋で生きて 生かされて

第二十九話

子会社の役員

社名は酒谷本店ですが舞鶴市の福井善四郎本店の子会社になりました。父に代わって社長就任の福井淳蔵氏はご尊父を中学生の頃亡くされ家業を引継ぎ後、舞鶴から島根県益田に至る山陰各地に支店や子会社を持つ大酒問屋に仕上げられた豪腕な事業家です。1961年(昭36)から1974年(昭49)までその下で鍛えられて今の私があると思っています。

福井社長の手腕を知るお得意先から「庇(ヒサシ)を貸して・云々」(前号記載)の言葉が出たのですが、「酒谷」の打開策は他になく仕方の無い状況だったのです。私の中で「どんな苦しくても借財を

返済し、土地建物は譲りきる」と心で固く決心していました。仕入先は現金なもので福井の応援で対応がコロツと変わります。商品の間口も拡がり業績も向上しました。仕入れ以外の財務・販売・総務・は全て私が掌握することになり、特に貸倒れ、横領、公私のけじめを付けることに気をくばりました。それを未然に発見する感性も仕事の中で磨かれたようです。

1964年(昭39)結婚し長女が生まれましたが生活は大変でした。父が社長時代から私の給料は店で最低でした。住と食は保証されているのでそれで良いと思っていました。福井社長になり、私が取締役になっても報酬は増えず、妻が住み込み社員の食事をつくる仕事の手当でヤット息を繋いでいる状態が続きました。一方会社の売上は急上昇しました。が利益は増えませんでした。

「売る商品の殆んどが「本店」經由仕入れになり、「子会社」の利幅は本店の意思でどうにでもなるのです。子会社の役員就任を拒めば良かったと思いましたが、それが運命と割り切るのでした。

監査役だった父は「いづみ屋(次号掲載)」の仕事に移りました。1988年(昭63)次女が生まれても、収入は軽いまま、住まいも2階の一部しか自由に使えない状態でした。これでは子供が大きくなれば生活が出来なくなると悩み苦しみました。土地家屋は、(株)酒谷本店(福井社長)に父の旧債務(約700万円)の保証で担保し入れてました。会社は毎月6万円を未払い家賃に計上してました。父がその金額を収入として納税申告をして

いることを確認し、時来たりなば、有る手段をとろうと決めていました。(次号に続く)

女性の「おいど」で困る

朝夕の通勤で「滑り石街道」を車で走る。朝は七時までに峠を越えないと通行禁止。お陰で対向車も殆んど無く楽。帰途は女性(注・嫁さん)を横に乗せて、店の出来事や世間話を主として聞きながら。街道は幅は狭いが全く離合不能な場所は二ヶ所しかない。夕方方は割合対向車が多いけれど運転暦57年2種免許、安全運転を心がけて走る。

山科方面から車が来た。離合できるのに降り待って下さる。だがこちらは通れない。前は避けているが「おいど(尻)」が出た斜停車。オイオイ「おいど」残こつとると運転者見ると大抵は「避けたげたやん」と不満げの表情した女性。運転席だけ避けて車は通れない。ヤット通つたのに、又、「おいど残しの自己中」が来た。ヤレヤレ!

「杭」になる程増えてきた「コンビニ」も最近「閉店 移転」が目立ちます。チェーン本部は利益増ですが、個々の店は不況と店舗間競争で七面六臂(シツメンロウビ)四苦八苦。シツハック

編集後記

セブソイレ

本に公取委が「弁当値引制限」は違法だと排除命令が出され、新聞各社も「廃棄口入問題」として話題にしています。京都市は「コンビニ」の終夜営業に制限を加える提案をしています。京都議定書(温暖化防止)が制定された「都市」として当然のような考えのようです。

昔から「出る杭はつたれる」といいます。他の業種、業態は減少傾向の中で、チェーン「ストア」特に「コンビニ」が増え続けたから「杭」にされたのでしょうか。

「杭」になる程増えてきた「コンビニ」も最近「閉店 移転」が目立ちます。チェーン本部は利益増ですが、個々の店は不況と店舗間競争で七面六臂(シツメンロウビ)四苦八苦。シツハック

笑門来復

「笑うことでオン・オフなるそうです。他、呼吸が増え、血流が良くなり内臓にも良いとか。おまけに脳から免疫活性ホルモンが分泌されるのです。そこで、八月二十三日(水)第二十一回落語会開催のお知らせです。出演者は、桂ひろば・桂 吉弥・桂 米二・多分早々に満席になるでしょう。会員さんのご健康を願って先にお知らせです。満席になれば締切りドッセ!

福来る」と言いますが、それだけで無く「健康」もついてくるのです。病気の元はストレスです。二日間糖尿患者25名調査。一日目は病院の先生から「糖尿のメカニズム」の講演を聴講。二日目は「漫才」を見て貰って「血糖値」はを計ると一日目は123mg、二日目は57mg。糖尿病患者の血糖値抑制スイッチが、笑う

小泉武夫先生 (1943年) 福島県の酒蔵で生まれ、東京農業大学応用生物科学部醸造科学科教授、農学博士。著書・テレビ・新聞で活躍されています。写真は小泉先生著作「いのちはくくむ」

3Pの朝刊

鹿兒島大学の「食と健康」のシンポジウムで発表されたことですが、奄美大島が日本で一番医療費がかかってない、世界一長寿の地域だといふそうです。

この稿は、平成19・10・8 相模原市・市民健康セミナーでの講演の抜書き「よいしょく通信97号」の掲載文より転用しました。次号にも掲載



二Fに置いてます。貸出し可